

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101875		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム田園 1階ユニット		
所在地	盛岡市下太田榊14-2		
自己評価作成日	平成24年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0370101875-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然・近代的な都市に囲まれた環境を活かし四季の変化に触れ合っている。一人ひとりの生活リズムを大切に散歩・買い物・ドライブ等自由に行い、のびのびと生活して頂いている。この貴重な時間を元気に充実して生活して頂くために体力低下予防に心がけ、運動機能向上・筋力アップ・バランス感覚を磨き転倒予防に心掛けている。地域との交流・家族との交流を大切に皆様に支えられ、求められるグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とのつながりの良さは、運営推進会議の取り組みの中で出された意見や地域の情報を活かし、事業所の運営に活かしている。そのことが、地域の子供を巻き込み事業所内での『伝承神楽』の披露に繋がっている。伝承神楽の発表は11月の予定である。また、年に1回の敬老会に沢山の家族が参加し、バスや家族の車を利用して、旅行を楽しむと共に、家族との意見交換の場ともしている。また、排泄支援においては排泄時に暖かいタオルを常時15本ほど準備をして、利用者に使用している。タオルは夜勤者が準備を行い、なくなったら補充する等快適に過ごせる工夫が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境・安心できる生活の提供は、ケアプランに組み入れており、園の理念は常に見えるところに掲示している。また、ユニットごとの目標を立てケアの指針としている。	年度初め、職員全員に年度の目標をアンケート調査を実施し、「心の声を聞く」「地域の人と交わり」「自然とのふれあい」を更に深めていこう、と決定した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々の運営推進協議会の委員になって頂き、協力や助言を頂いている。子供会の資源回収に協力したり田端地区1班に加入しており地区のお祭り等に参加する等、地域活動に参加している。	町内会に加入しており、回覧板等を廻して頂き、子供会の行事予定も把握しながら、交流を深めている。グループホームの納涼祭では、5・6年生との交流を持ち、ピザを焼いたり、紙相撲で遊んだり、楽しいひと時を過ごした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大宮中学校の職場体験を受け入れ、認知症の理解やグループホームの役割を知ってもらっている。また、行事等に地域の人々もお誘いし、中に入ってもらくことで認知症の人の理解や支援の方法を知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・近隣保育園・福祉センター職員にも委員に加わって頂き、行事や日々の生活状況を報告したり、委員からは意見やアドバイスを頂く等している。今年は委員からの提言もあり、避難訓練に近所の方々にも参加して頂いた。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催する。地区子供会行事が回覧板で知らされており、運営推進会議開催時、子供神楽の発表の場を事業所に要望され、今後「子供神楽」見物を実施予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や疑問点は電話で問い合わせる等している。また、地域ケア会議等で包括支援センターの職員に相談したり助言を頂く等連携を図っている。	市町村との連携は本社が担っており、事業所は本社との連携である。利用者家族が、市から(利用者に関する)指導を受けたその内容を踏まえ、事業所において利用者の症状悪化に備えた例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の意思を尊重し、危険がない限り自由にして頂き見守りをしている。玄関の施錠に関しては防犯上の理由から行っているが、利用者様の希望があれば共に外出や散歩に出掛けている。	道路に面しているため、常時施錠しており、家族にも了承して頂いている。また1階とベランダにもセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ユニット会議・リスクマネジメント委員会で討議し、些細なことでも見逃さないよう日々職員同士で注意を払い、未然に防げるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なときは、担当者が市の職員と協力しながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分な説明をするともに疑問や不安等を伺い理解して頂き契約及び退去となっている。また、入居・退居後でも問い合わせに関しては丁寧に対応している。改定時は、書面で提示した上で問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会に家族代表に参加して頂き、助言・協力を頂いている。また、面会時や行事等の際に要望等を聞くように努めている。その他にも、玄関にご意見箱を設置している。日々寄せられる言葉から利用者の希望・要望を汲み取るようにしている。	家族が来訪された時、それぞれ聞き取っている。来訪時、利用者の日常が分かるように利用者が描いた絵や、折り紙を貼って色の変化で心の変化も感じ取っていただいている。	運営推進会議委員の家族代表者が1名固定されているが、複数の家族意見を反映させるため、家族構成員の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設置し多面的な角度から話し合い全体会議にかけて反映している。また事務所に職員の疑問質問要望入れを設置している。	広報行事地域活動・スキルアップ・発注メニュー作成・防災エスケープ環境美化保全・個別援助計画作成・健康サポート・地域運営推進会議・リスクマネジメントの8委員会の設置。各会からの案件を全体会議にかけ、向上に向けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心に職員が各々役割を持ち、よりやりがいや評価しやすい環境が作られている。また、講習会への参加や資格取得を積極的にバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔月でスキルアップ勉強会委員が主体となり園外・園内研修を調整、実施している。資格取得の為の研修等への参加に配慮した勤務体制とし、また資格取得後は会社既定の手当てを支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の会議や地域ケア会議などに参加したり、グループホーム協会主催の交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時から事前面接の時などに本人の心配事や不安等を汲み取るよう努めている。また可能な限り見学に来ていただき雰囲気を感じてもらおう等、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせから入居に至るまで聞き取りなどによって家族の不安、希望等を汲み取るようにしている。また面会時等の機会を捉え要望等を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族との面会、話し合いなどで本人に合ったサービスの利用を勧めるなど自事業所のみでなく情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片づけ洗濯物たたみ、花の水やり等一人一人の能力に合わせて役割意識を持っていただきながら生活ができるよう配慮している。又、入居者同士でも支えあいながら生活できるよう人間関係把握に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助をお願いしたり行事等に参加して頂くなど共に過ごす時間を大切にしている。又外出、外泊時の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に馴染みの場所へ出かけたり馴染みの方々の面会を歓迎している。	墓参りや、各家族の集まりには家族が連れて行く。温泉で行う敬老会では、温泉バス利用者(24名)と家族と共に自家用車で往復する利用者(20名)利用者・家族・事業所とのコミュニケーションが図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者と一緒に手作業をしたり席の配置などに考慮している。仲の良い方の食器を下膳してくれる入居者には役割を失うことのないよう見守り対応する等円滑な人間関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族にその後の様子をお伺いしたり心配事を傾聴している。又転居の際には情報を共有したり転居先に面会に行くなどをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常の会話の中に含まれる本人の思いを受けとめ個別ケアプランに組み入れている。面会時に家族や本人のお話を聞き気持ちを汲み取りながら対応している。	利用者本人との会話の中から過去の経験や生活を聞き取り、ケアプランに組み込んでいる。また、お洒落な方で、綺麗なタオルで顔を洗い、自分で髪をプランで整えるプランを立て、2週間実行したところ、表情が変わり、笑顔が戻った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	笑顔や心の安定の為、本人の生活歴をできる限り聞き取り日常の中でその行為を受け止めるよう努めている。又日々の会話の中から汲み取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どの時間に不安になるのか観察し事前に対応することで混乱を防ぐことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多方面からの情報収集、また家族とも面談し生活歴性格などについてお話を聞きながら三か月ごとのケア会議で情報を共有しながらプラン作成に取り組んでいる。	毎日の業務日誌、ケアマネージャー、担当職員、病院などからの情報収集し、ケア会議で検討し、介護計画に反映している。センター方式を取り込んだものにシフトすることを考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護支援経過の記録にて本人の日々の変化を記録し都度対応している。申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向を把握しながら現状で何ができるか考えて対応している。又事業所のみならず必要と思われるサービスの情報提供を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時の挨拶、納涼祭へのご招待、地区のお祭りに参加する等行事を通して入居者と地域の交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状の経過、家族の思いを受け止めそれぞれのかかりつけ医に受診して頂いている。緊急時や夜間の往診などは園の協力医に往診を依頼。ご家族様には了解を頂いている。	本人、家族の希望する主治医がいる。協力医は、訪問診療も受け入れていただいている。緊急時や夜間の往診が事業所の協力医院においてなされ、家族から喜ばれている。協力医院、本人・家族、事業所の信頼関係がうかがわれる。歯科医は、訪問診療希望者だけ訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化も看護師に報告し指導の下職員間で情報を共有し病状の早期発見に努め協力医の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、園での生活状況や、介護の方法等を情報提供し、入院中でも病院担当者と連絡を取り合いながら早期退院に向け支援している。必要なものを届けたり洗濯などの支援に努め、退院後はサマリーを活用し症状の変化に注意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成している。本人の意思を最大限に尊重し医師により終末期と判断され時、家族、医師、田園担当者会議にて本人に一番良い方向を検討している。又終末期の対応についてご家族の意向を把握し方針を職員と共有しながら日常生活を継続している。	終末期における指針が作成されており、入居時に説明がされている。看取り介護経験はないが、本人・家族と充分に話し合い、(延命治療は望まないが)食事が摂れなくなり入院された利用者がある。食事が出来るようになったら事業所に帰る、と話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について今年度全職員が消防署の普通救助講習を受講している。又園のマニュアルを作り掲示し職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は消防署の普通救命講習を全職員が受講している。地域の方や運営推進会議委員の皆様から協力を得て夜間想定火災避難訓練を行っている。又隔月ごとに自主防災訓練も行っている。	事業所職員だけでなく、消防署や運営推進会議の委員の協力を得ながら、年2回の避難訓練を行っている。なお、夜間想定火災避難訓練や自主訓練も積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心の状態も大切に誇りやプライバシーを大切に一人一人が分かる声掛けをしている。特に排せつや入浴時は声がけに配慮し礼儀を守るよう心掛けている。気になる点は申し送り時やユニット会議などで話し合っている。	上から目線の声かけはしない、「ちゃん」付けはしない、などに配慮しているほか、指示はきちんと柔らかな言葉遣いで、地域の言葉を使う、を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは一方的な声掛けでなくわかりやすい言葉で端的に、本人にわかる声掛けを心がけ、自己決定していただくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のリズムを把握し自由に過ごしていただいている。性格や特技、趣味を活かしパズルや貼り絵など楽しんでいただいている。外出の希望等は可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者は定期的に髭剃りを提供している。女性利用者はお好みの洋服を職員と共に選んだりマニキュアの色を選び塗ったりして楽しんでいる。隣の施設の美容師による月2回の散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをリクエストしメニューに取り込んでいる。又季節のものをお出しし季節感を味わっていただき、食事前にメニューの説明をし感覚でも楽しんでいただいている。	完食した利用者に、職員が全部食べたことへ優しい声掛けがなされていて、(利用者の)笑顔が見られた。食事時の雰囲気は明るく楽しい感じが感じられた。利用者の希望メニューも取り入れ、季節感のある献立作り等の工夫が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックを表にして摂取量を確認し栄養面の管理をしている。脱水等に気を付け水分を取らない入居者にはお茶ゼリーを作り水分補給をしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	イソジンガーゲルの薄め液を使用し口腔内の清潔の支援をしている。義歯は食事ごとに洗浄し就寝時は洗浄液に付け清潔に保持の支援をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔に合わせ声掛けを行っている。又しぐさや表情を観察してトイレ誘導を行いなるべく便器排尿、排便ができるよう支援している。	入院時は、身体拘束(オムツ、ミトン、つなぎ服)を受けていた利用者が、こちらのホームに入居後、布パン、夜はリハパン、現在は布パンツとなっている。排泄パターンを把握し、頻繁に声がけをして改善に向かっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多いメニューを取り入れている。又本人の排泄パターンに合わせ歩行運動や軽体操で腸に刺激を与える運動を行っている。医師の処方で整腸剤や下剤を服用している方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中の午後を入浴時間となっている為、入居者は時間を認識しており楽しみにしている。入浴中は歌を歌ったり職員とのコミュニケーションの場となっている。又入浴の前後は水分補給を行い、手すりや介助いすを活用し安全に入浴ができるよう配慮している。	1日3~4名入浴している。午前中に入浴される利用者は1名、午後は3名いらっしゃる。13時~15時に利用されている。毎日、入浴を希望される方へも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切に居室でお昼寝をしたりしている。又ソファにて音楽を聴きながらくつろいだり外の景色を楽しんだりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の病気を把握しお薬説明書を参考に職員間共有している。又わかるところに注意書きを掲示し誤与薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を大切にできる事は進んでやっていただいている。台所仕事、花の水やり、草取り、合唱をリードする等。近くのスーパーに職員と一緒に買い物に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	園の近所の散歩や近くのスーパーへ買い物等、また行事で外出の際はできる限り家族の自家用車で出かけられるよう支援している。	家族の協力を得ながら支援しているほか、事業所の買い物に行く時等に、同行して出かけている。ドライブは利用者2人に職員2人が付き添っている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務所で管理している。数名の入居者は家族の承諾のもと少額をご自分で保持している。外出時お金を払うことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から手紙が届いた際一緒に内容を確認している。年賀状やクリスマスカードを送っている贈り物が届いた際お礼の電話をしている。電話の要望があれば都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったクラフト作品を飾っている。毎日居室、トイレ、廊下を掃除している。花壇には季節の花が咲くよう配慮している。玄関やベランダに季節の花を飾っている。	広い廊下とゆったりした談話室・食堂に季節の花が飾られ、作品が貼られている。食事は、カロリー計算されたメニューで提供されている。明るさも程よくあり、居心地のいい空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと座れるソファが4か所に設置しておりそれぞれに音楽を聴いたり外の景色を眺めたり利用者様同士でお話ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参して頂けるようお願いしている。帰宅の要求の強い入居者などには、逆効果の時もあるため家族と相談しながら臨機応変に対応している。	各居室9畳の広さがある、ゆったり整理整頓された居室である。本人によっては、使い慣れた家具などで、帰宅願望になることもあり、本人・家族と相談をして配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙をしている。部屋の場所が分かるように「〇〇さんのお部屋です」と居室ドアに大きく表札をつけている。		